

学まちチャレンジ！プロジェクト

学生から応募される自主的な地域連携活動を支援

本プロジェクトは、京都市第二期「学まち連携大学」促進事業に採択された取り組みの一つとして2021年度から2023年度まで実施してきたもので、事業終了後の2024年度においても継承し、実施しているものです。2024年度もそれぞれのグループがプロジェクトを通して自主性・企画力・課題解決能力・コミュニケーション能力を培い、得意なことや学んだことを活かして地域の課題解決にチャレンジしました。

①自由テーマ型

「こどもの居場所をつくりたい」「まち歩きマップをつくりたい」など、同じ思いをもった仲間を集めてプロジェクトを立ち上げるものです。

応募資格 本学の学生(学部生・大学院生)で原則3名以上のグループ

NO.	チーム名	プロジェクト名	概要
1	OSJ 橘	書道を楽しくしっかり学ぼう！	地域の方に向けて、書道を楽しく学んでもらうための書道教室や書道イベントを実施するプロジェクト
2	京都橘大学ピアカウンセリングサークル	子宮頸がんは予防できる？！～予防の大切さを学んだ看護学生だからこそ伝えたい～	思春期ピアカウンセリングをベースに、中学生～大学生へ子宮頸がんについての正しい知識と自己決定について啓発するプロジェクト
3	京都橘大学考古学研究室 山科遺跡魅力発掘チーム	山科「ふるさとの会」と連携した山科の歴史遺産魅力発掘プロジェクト	山科の歴史遺産巡りのパンフレットを作成、遺跡出土品の展示を通じ、地域のふるさとの魅力・発掘に貢献するプロジェクト
4	ナースのたまご	健康に長生きするために	地域の高齢者一人ひとりが健康について意識を向け、自ら健康を獲得できるように健康教育を実施するプロジェクト
5	看護医療系サークルNICO、 看護学部有志	運動で地域をつなGO!!!	地域の方へ気軽にできる運動を紹介し、運動を通して年齢にかかわらず楽しく交流できる場を提供するプロジェクト
6	防災サークルFAST	備えようその瞬間	災害や救急医療に関する知識と技術を共有することで、予測不能な大災害に備え周りの人を助けられる人材を育成するプロジェクト

②テーマ設定型

連携機関とともに地域の活性化を目的とした活動を行う参加者を募集するものです。

本学のメンバーと連携機関の職員の方々とが協働し、地域活性化のためのプロジェクトを作り上げていきます。

応募資格 本学の学生(個人・グループとも可)

NO.	プロジェクト名	概要
1	コミュニティ・バンク京信連携	コミュニティ・バンク京信山科支店と連携し、イベントを通じて健康や生活の安全の大切さを地域の方々に発信するプロジェクト
2	山科区役所連携	山科区役所と連携し、区民一人ひとりが健康づくりに積極的に取り組んでいくため、「(健)診の受診率向上」「骨粗しょう症予防」を呼びかけるプロジェクト
3	醍醐いきいき市民活動センター連携	醍醐周辺地域の子ども・子育て世代の交流を目的としたイベントに参加し、若者世代の集まる仕組み作りを考えるプロジェクト

- 実施地域・場所
京都市山科区、伏見区
- 参加学生数
30名

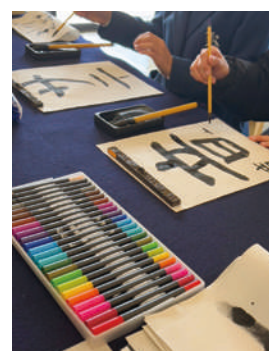
書道を楽しくしっかり学ぼう！

OSJ 橘

1年を通して幅広い活動を展開

OSJ 橘は、文学部日本語日本文学科書道コース有志の学生による団体で、O:おもしろい、S:しっかり学べる、J:字がうまくなるの頭文字を取って名付けられました。多くの人に筆を持つ機会を提供し、書道の魅力を発信することを目的に、OSJ 橘では地域に根ざした活動を展開しています。特に子どもたちの字の上達や書道の基礎習得、集中力の向上を目指し、学びの場を創出しています。今年は本学の山科駅前サテライト・ラボラトリー「たちらボ山科」での毎月2回の書道体験会の定期開催を中心に、様々な場所でワークショップや書道パフォーマンスなどの幅広い活動に取り組み、小学生を中心に親子での参加や、リハビリに取り組み高齢者の参加など、多くの方々に書道を楽しんでいただきました。

イオンタウン山科柳辻のイベントでは、季節ごとのテーマを取り入れた書道体験が好評で、音羽リハビリテーション病院でのワークショップでは幅広い世代の方々と交流を深めることができました。醍醐味eetsでの書道パフォーマンスは、多くの観客に書の魅力を伝える機会となりました。また、たちらボ山科での書道体験会の開催では、書道の楽しさを多くの人に伝えることができたが、一方で集客の課題も浮き彫りになりました。従来の宣伝方法では参加者の減少が見られ、SNSの発信強化や活動内容の見直しを図る必要がありました。また、指導のばらつきや基礎指導の不足といった課題も明らかになり、改善に向けた取り組みを進めています。



今年度の課題を踏まえ、質の向上を目指す

今後は、たちらボ山科での活動を「書道体験会」から「書道教室」へと発展させ、今までの参加者が自由に好きな文字を書いてもらう方針から、参加者の上達が実感できるよう「月課題制」を導入する予定です。これにより、計画的な指導を行い、書道の基礎をしっかりと学べる環境を整えます。また、指導者(学生)の技術向上にも努め、お手本作成を競い合う仕組みを導入することで、質の高い指導を目指します。さらに、開催場所の複数化を検討し、より多くの子どもたちに書道を学ぶ機会を提供できるよう取り組んでまいります。今後もメンバーの指導力向上、活動の充実を図りながら、地域社会に貢献し、書道の魅力を広める活動を続けていきます。



たちらボ山科での書道教室



醍醐味eetsでの書道パフォーマンス



音羽リハビリテーション病院でのワークショップ

子宮頸がんは予防できる？！ ～予防の大切さを学んだ看護学生だからこそ伝えたい～

- 実施地域・場所
京都市山科区
(山科青少年活動センター)
- 参加学生数
7名

京都橘大学ピアカウンセリングサークル

子宮頸がんに関する啓発のために

本プロジェクトは中学生・高校生・大学生に子宮頸がんについて知ってもらうことを目的に活動を開始しました。子宮頸がんは性交渉の経験がある女性なら誰でも感染する可能性があるウイルスが原因となり、特に20～30代の若い女性の罹患率が高いがんです。しかし、この病気について知る機会が少ないのが現状です。そこで、子宮頸がんに関する情報を広めるため、パンフレットやオリジナル消しゴムの作成、地域イベントへの参加、青少年活動センターでの企画を実施しました。



オリジナル消しゴムのケース



パンフレット

地域の子ども・中高生へ向けたグッズ作成・イベント参加

活動はパンフレットとオリジナル消しゴムの作成から始まりました。パンフレットは看護学科の教員や学術振興課の職員の協力を得て内容を精査し、より正確で分かりやすいものを作成しました。また、中高生が普段よく使用することが考えられる消しゴムに2次元コードを添付し、パンフレットの情報に簡単にアクセスできる工夫を施しました。

次に、2つのイベントに参加しました。1つ目は「やませいフェスタ」への出店で、50名以上の来場者にパンフレットと消しゴムを配布しました。小さな子どもが多かったため、保護者に積極的に声掛けを行い、「子宮頸がんについての情報を知りたかったのでよかった」等の前向きな反応を得ました。2つ目は山科青少年活動センターでの「大学生と一緒にクリスマスス♪ ビーズストラップ作り&何でもトーク」です。この企画では7名の参加者と交流し、進路や恋愛、生理・ピルの話などを通じて理解を深める機会となりました。男性の参加者からも「家族に伝えたい」との声があり、幅広い層に影響を与えることができました。



やませいフェスティバル

啓発の難しさと学生であるからこそその強みを実感

これまでの活動で行政機関(山科区役所)や地域団体とのつながりを持つことができました。イベントを通じて「子宮頸がん」という言葉を知ってもらうことはできましたが、具体的な関心を高めるには至らなかったと思っています。そのため、今後は子宮頸がんの拡大画像などを用いて視覚的な情報を活用し、病気の詳細をより分かりやすく伝えていく必要があると考えています。

また、活動を進める中で学生は中高生と年齢が近く、生理や恋愛について相談しやすい存在であることを認識しました。今後は、大学生であるからこそその強みを生かしながら、行政機関とも連携し、中高生が安心して相談できる環境づくりを進めていきます。



ビーズストラップ作りの様子



大学生と一緒にクリスマス♪

山科「ふるさとの会」と連携した山科の 歴史遺産魅力発掘プロジェクト

京都橘大学考古学研究室 山科遺跡魅力発掘チーム

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
5名

山科「ふるさとの会」と山科の遺跡・遺産巡りを実施

本プロジェクトは、山科区を中心に活動する「ふるさとの会」の良さを活かしたまちづくりを進める会（以下、ふるさとの会）と連携し、地域の歴史や遺跡を広く伝えることを目的とした活動です。「ふるさとの会」は、歴史遺産学科と2021年度から協力して遺跡調査などを行ってきましたが、スタッフの高齢化が進み、活動の持続的な継続を思索していました。そこで、地域のニーズに応える形で、学生が協力しながら山科の遺跡・遺産巡りを企画しました。具体的には、11月10日（日）に「ふるさと山科発見 山科の遺跡・遺産巡り」を実施し、約70名の参加者とともに山科の歴史的遺産を巡る機会を提供しました。また、京都市営地下鉄柳辻駅の「アートロードなぎつじ」にて、山科区の考古資料を展示し、地域の歴史を広く発信する活動も行いました。



遺跡巡りでは学生自ら説明

対話の中で、歴史を共有することの大切さを実感

遺跡巡りでは、自治連合会関係者や議員の方々にも参加いただき、地域の歴史の価値をともに共有することができました。当日の資料として作成したパンフレットは好評で、「学生の解説が分かりやすかった」「地元の歴史に触れる良い機会になった」といった声が寄せられました。また、学生自身も事前に博物館での資料調査や報告書の精査を行い、計画立案力や情報収集能力を向上させる機会となりました。当日は、チームメンバーもふるさとの会の方々とともに宮道古墳などの遺跡を巡り、専門的な知識を交えながら参加者に解説を行いました。しかし、埋蔵文化財の説明は難しく、目に見えないものを伝えるためには、より具体的な資料や視覚的な工夫が必要であることを痛感しました。一方で、地域の方々と対話を重ねる中で、歴史を共有することの大切さを実感し、文化財の保存と活用において地域住民との協力が不可欠であることを学びました。



パンフレット

プロジェクトを継続し、地域の活性化につなげるために

「ふるさとの会」からは継続実施の要望があり、2025年度以降もプロジェクトを継続していく予定です。今回の課題を踏まえ、視覚的な資料を充実させ、より分かりやすい説明方法を取り入れることが求められます。例えば、遺跡の3D再現図や発掘時の写真を活用することで、参加者がより理解しやすい形にする工夫を検討しています。また、文化財専門職を目指す後輩たちにノウハウを伝え、持続的な活動の仕組みを作ることも重要です。地域の歴史を学び、それを多くの市民に伝えることで、山科に対する愛着を深めてもらい、地域の活性化につなげたいと考えています。今後も「ふるさとの会」との連携を強化しながら、地域に根ざした活動を継続し、歴史的遺産の魅力をより多くの人々に伝えていきます。



京都市考古資料館での資料調査



兵庫県立考古博物館での資料調査

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
5名

健康で長生きするために

ナースのたまご

地域の高齢者に対する健康教育の実践

今回のプロジェクトは、プライマリヘルスケアの授業で健康教育を経験してみて、健康教育に興味を持ったことをきっかけに、地域の高齢者の方々に對して熱中症に関する正しい知識を持ってもらいたいと考え実施しました。実際に地域の方々に健康教育を行い、興味を抱いてもらうにはどのような工夫が必要か、継続力を持つためには何が必要なのか学び、主体的に実施する力や周りの仲間と協力する計画性を身につけ、今後の地域での健康教育につなげていくため、2回のイベントの企画・運営に挑戦しました。

季節に応じた企画で取り入れやすく

それぞれの季節に応じた健康教育を行う事で高齢者自身がその日から取り入れやすいように工夫しました。

第一回は健康教育のため、夏バテや熱中症対策のクイズ大会と冷やしタオルの配布を企画しました。当初、準備段階では説明に難しい言葉や医療の専門用語を使っていましたが、教員からのアドバイスにより、対象の人に理解しやすい言葉・声の大きさ・トーンを意識する必要性に気づくことができました。また、クイズでは単に答えを発表するだけではなく対象者とコミュニケーションを取り、一方的な教育ではなく、双方向のコミュニケーションをとる工夫が必要であると考えました。

当日は大勢の参加者に参加してもらいましたが、流れを把握しきれていない高齢者への対応が行き届かず、大勢の参加者をまとめてプログラムを進めるという点で準備不足が目立ちました。

第二回では同じく「学まちチャレンジ！プロジェクト」に参加する作業療学科の有志とのコラボでコミュニティ・バンク京信山科支店での「秋のふれあい健康イベント」に参加し、ヒートショックに関するクイズ大会と認知症予防体操「コグニサイズ」を実施しました。第一回での反省を活かし、参加者全体に対応が行き届くようリハーサルを行って改善することができました。

実際の場面を想定する力を付ける

2回のイベントを通して、季節に対応した健康教育を実施することでより興味をもって取り組んでもらうことができました。今後は生活習慣予防や、認知症予防等のどの季節にも対応できるような健康教育を行うことで継続して実施することができるとも考えています。また、1回目に学んだことを2回目に取り入れ改善することができたものの、当日を迎えるとまだまだ準備や計画が必要な部分があることに気づきました。例えば、健康教育プログラムの流れやクイズの出し方を工夫する、当日のスケジュールを把握して各自役割分担を行い、スムーズに内容が進むように心掛ける等、実際の場面を想定して企画する力を付けていきたいです。



健康クイズ



体操を実施

運動で地域をつなGO!!

看護医療系サークルNICO、看護学部有志

- 実施地域・場所
京都市山科区
(本学キャンパス内)
- 参加学生数
12名

運動で地域住民の健康維持・向上を目指す

看護医療系サークルNICOは、もともと山科周辺地域でのボランティア活動を行う団体であり、これまで山科青少年活動センターなどで活動を展開してきました。今回の「学まちチャレンジ！プロジェクト」への参加は、指導教員の助言もあり、地域住民が健康を維持・向上させるための運動機会を提供することを目的として決定しました。本プロジェクトでは、特定の年齢層に限定せずに活動を実施することで、異なる世代間の交流を促進し、地域コミュニティの活性化に貢献することを目指しました。活動内容としては、看護学部の体力測定会や「たちばなこども食堂パーティー」(以下、こども食堂)の一企画として、年代に応じたルールを取り入れながら風船バレーボールを実施しました。夏の体力測定会では地域の老人クラブの方々約40名、冬のこども食堂では子ども50名とその保護者が参加し、幅広い世代に楽しんでいただきました。

高齢者も子どもも楽しめる工夫

本プロジェクトでは、参加者の体力や認知機能の向上を目指し、工夫を凝らしたプログラムを実施しました。例えば、体力測定会で実施した老人クラブ向けの風船バレーボールでは、風船を回す際にしりとりを取り入れることで、身体と脳を同時に活性化させるよう工夫しました。参加者からは「楽しく体を動かすことができた」「しりとりの難しさもあり、脳トレの必要性を実感した」といった感想をいただきました。また、手ぬぐいを活用した準備体操を行い、参加者が自宅でも継続して運動できるよう指導しました。



体力測定会での準備体操



体力測定会での風船バレー



たちばなこども食堂パーティー

一方、こども食堂では、よりバレーボールに近いルールでチーム対抗戦を実施し、子どもたちは夢中になってプレーしました。初対面の子ども同士が協力しながら試合を進める様子が見られ、スポーツを通じた交流の大切さを実感しました。「もっとやりたい」「また参加したい」といった声も多く寄せられ、継続的な活動の必要性を改めて認識しました。

サークルとしてボランティア活動を継続

本プロジェクトを通じて、異世代間交流の重要性や、運動を楽しみながら健康維持を促す工夫の必要性を学びました。一方で、しりとりを取り入れた風船バレーボールでは、同時に二つの動作を行うことの難易度が高く、ルールの調整が必要であると感じました。また、対戦形式になると子どもたちが熱中しすぎてぶつかる場面が見られ、安全対策の強化が課題として上がりました。今後の活動においても、NICOとしてのボランティア活動を継続し、今回の経験を今後の地域貢献に活かしていきたいと考えています。

備えようその瞬間

防災サークルFAST

- 実施地域・場所
京都市伏見区(コープ桃山)、
山科区(京都市立東総合支援
学校、本学キャンパス内)
- 参加学生数
7名

対象ごとに工夫した防災のイベントを実施

本プロジェクトでは、市民の防災意識の向上を目的に、さまざまな年齢層を対象としたイベントを実施しました。

まず、くらしの助け合いの会様とのコープ桃山でのイベント「もしも…の時に備えませんか！」では、心肺蘇生法(BLS)、一次救命処置、災害時に注意すべき病気とその予防に関する講義、防災食の試食会を行いました。10名が参加し、人形と訓練用AEDを使用した心肺蘇生法の実践や、身近な道具を使った応急処置の訓練を体験していただきました。また、避難所での感染症対策をまとめたポスターを掲示し、防災食の試食も実施しました。防災意識の向上に貢献できた一方で、ポスターを見てもうう仕掛け作りや、高齢者への胸骨圧迫やAEDの使用についての課題が見えました。今後は、高齢者が実施しやすいBLSの方法を考える必要があります。

「たちばなこども食堂パーティー」では、同じく防災に取り組まれている団体・ミンナソラノシタ様と共同で「こども防災ブース」を出展し、FASTは子ども向けの防災名札制作を実施しました。防災名札は、名前や保護者の連絡先を記載することで、災害時に一人になった際でも迅速に身元確認ができるものです。一人で行動する年齢の子どもたちが安全に過ごせるよう工夫しました。約50名の参加者からは防災名札について初めて知ったという声が多く寄せられ、個人情報の記載に対する懸念もありましたが、正しい使い方を伝えることで受け入れられました。反省点として、字が書けない子ども向けの制作活動も提供するなどの工夫が必要だと感じました。また、この防災名札は認知症の方にも有効であるため、今後は高齢者向けの活用も検討していきます。

「楽しく学ぼう！防災授業」では、京都市立東総合支援学校の中学部の生徒6名を対象に、ゴミ袋ポンチョの制作と防災クイズを実施しました。日常生活の中で使用している物が防災グッズとして活用できることを楽しく学んでもらい、防災意識の向上を図りました。実施する中で、障害を持つ方々と十分なコミュニケーションをとる上での事前の準備や練習の重要性を痛感しました。また、障害を持つ方の避難方法や避難所での受け入れ体制について学ぶ機会となり、地域と連携した支援の必要性を強く感じました。



消火器の使い方体験

より実用的で参加しやすい防災啓発活動へ

プロジェクトを通じて、特に子どもや高齢者、障害を持つ方々を対象とした防災の重要性を実感しました。今後は、より多くの市民が実践できるBLSの方法や、災害時の応急処置のワークショップを増やしていく予定です。さらに、障害を持つ方々の防災や避難についての理解を深めるため、専門家や地域団体と連携し、避難所での受け入れ体制の向上を目指します。今後も地域の方々と協力しながら、より実用的で多様な人々が参加しやすい防災啓発活動を展開していきます。



心肺蘇生法の講習



防災の授業



防災名札作り

地域交流拠点を活用した ふれあい健康イベント

コミュニティ・バンク京信山科支店×作業療法学科有志学生

コミュニティ・バンク京信山科支店と連携し、地域を活性化

本プロジェクトは、コミュニティ・バンク京信山科支店（以下、京信山科支店）と連携し、山科地域の活性化を目的とした活動を展開するもので、地域連携活動に関心を持つ健康科学部作業療法学科の有志学生によって結成されました。活動は京信山科支店のコミュニティルームで実施し、主に高齢者を対象とした脳トレクイズ、ものづくり、体操、レクリエーションなどを行いました。

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
9名



イベントのチラシ

季節やニーズに合わせて楽しめる健康・交流イベントを実施

2024度は、9月、11月、12月の3回のイベントで計58名が参加し、参加者同士や学生との交流を深め、健康意識を高めることができました。脳トレクイズでは、なぞなぞや病気の発症予防に関する問題を出題し、健康への意識向上を促しました。ものづくりでは、夏はマイうちわ、冬はクリスマスオーナメントボトルを制作し、季節感をしみながら交流を深めました。体操では、同じく「学まちチャレンジ！プロジェクト」で活動している「ナースのたまご」による認知症予防体操「コグニサイズ」を実施し、脳の活性化を図りました。さらに、レクリエーションとしてうちわを使った風船リレーや的あてゲームをチーム対抗で実施し、楽しみながら運動できる機会を提供しました。また、12月には京信山科支店で開催された「キラリ!!やましな2024」にも初参加し、短時間ながら多くの方に楽しんでいただくことができました。イベント後のアンケートでは、「学生との交流で元気が出た」「これからも参加したい」などの嬉しい声が多く寄せられ、すべてのイベントに参加した方も多数おられました。

より良いイベント運営を目指して

イベント運営を通じて、計画を立てることの重要性を学びました。例えば、制作の道具が不足し、参加者同士に譲り合っていたりしながら制作する場面があり、事前のシミュレーションが必要だったと感じました。また、学年の違う少人数のメンバーで運営したことから、顔を合わせる機会が少なく情報伝達が円滑に進まない場面もあり、報告・連絡・相談の徹底や、グループ内での情報共有が円滑な運営に欠かせないと実感しました。

今後の活動については、高齢者が健康について情報を得たり実践したりする機会が限られている中で、継続的に活動する必要性を強く感じました。このイベントが生活の楽しみになったという方が多い一方で、地域での交流の場はまだ不足しており、情報が限られた層にしか伝わっていないという課題も上がりました。より多くの方に継続的に参加していただくためには、イベント終了時に次回の予定を伝えたり、参加者の意見を取り入れたりすることが有効だと考えられます。今年度の成果と課題を次年度へ引き継ぎ、より良いイベントを実施できるよう努めたいと思います。



脳トレのスライド



オリジナルうちわ作り



うちわを使った風船リレー

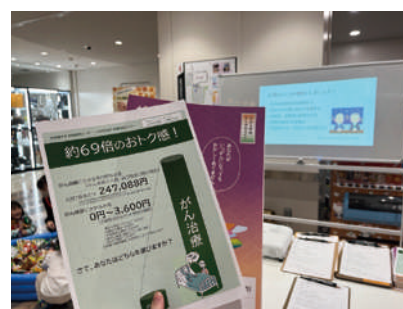
みんなで受けよう！がん検診

山科区役所×看護学科有志

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
5名

山科区役所と連携し、がん検診受診率向上を目指す

本プロジェクトは山科区役所保健福祉センター健康福祉部健康長寿推進課（以下、山科区役所健康長寿推進課）と連携して実施しました。山科区では、がん検診の受診率が京都市の平均に比べて低く、特に悪性新生物による死亡率が高いという健康課題が存在しています。このような背景を踏まえ、区民が健康づくりに取り組んでいくためにはどうしたらよいかというテーマで山科区役所健康長寿推進課の担当者の方と一緒に実施内容を検討しました。学生のメンバーが看護実習でがんの発見が遅れた患者様と出会い、がん検診の重要性を再認識したというエピソードをきっかけに、がん検診の受診率向上を目指した活動を行うことに決めました。



館内でチラシを配布

子育て世代にアプローチする工夫

本プロジェクトではイオンタウン山科榎辻にて、がん検診の重要性を周知し、受診率向上を図るための活動を行いました。具体的には、がん検診についての内容を説明したスライドをプロジェクターで流して周知しました。また、がん検診の受診率の低い子育て世代を狙って、輪投げやお菓子つかみ取りの遊びを実施しイベントへの参加を促し、保護者にはクイズ形式のアンケートを実施しました。40組の家族が参加し、54名の方にアンケートを実施しました。参加者からは「がん検診に行ってみます」といった声をいただき、がん検診の重要性を理解してもらうことができました。特に、がんになる人数が2人に1人であることを伝えた際、参加者の多くが驚かれていました。がんについて正しい知識を伝えることができた点は大きな成果です。他にも、イオンタウン山科榎辻の来館者100名ほどにチラシを配布することができました。

年代ごとに合わせた内容で効果的な活動に

プロジェクトの実施後、参加者の中にはがん検診の受診意向を示す方が増え、一定の効果を確認できました。しかし、実施中に感じたのは、高齢者の方が「がん検診の対象ではない」と考えているケースが多かったことです。そのため、がん検診の対象者について、すべての年代の人々に適切な知識を提供することが必要だと感じました。今回のように年代ごとに対象者を限定し、対象に合わせた実施内容を用意することで、より効果的な集客が期待できると思います。今後は、高齢者向けに特化したプログラムやイベントを実施し、さらに多くの人々にがん検診を受ける重要性を伝える活動を展開したいと考えています。



子育て世代でにぎわう様子



ブースの様子



スライドを見てクイズに回答

醍醐地域における子ども・ 子育て層が住みやすいまちづくり

醍醐いきいき市民活動センター×有志学生

- 実施地域・場所
京都市伏見区
- 参加学生数
5名

醍醐いきいき市民活動センターと連携

本プロジェクトでは、醍醐いきいき市民活動センターや地域の市民団体と連携し、子ども・子育て層が安心して過ごせる居場所づくりを目的としたイベントに参加しました。年間を通じて、「醍醐deワイワイ井戸端会議やんちゃMTG」「だいがゆめもり秋祭り」「醍醐いきいきフェスティバル」「醍醐(だいGO!)ゆめコレクション×未来へつなぐ架け橋プロジェクト」といった地域イベントにおいて、子ども向けのブース運営や企画に携わりました。特に「だいがゆめもり秋祭り」では、地域の子ども支援団体と協力し、250人の子どもが参加する思い出づくりイベントを実施しました。これらの活動を通じて、地域の子どもたちが安心して遊べる場の必要性や、地域団体との協力の重要性を学ぶことができました。



イベントのチラシ

不足する担い手同士の連携の大切さを実感

プロジェクトを通じて、イベント運営の担い手が不足していることが課題として上がりました。「醍醐(だいGO!)ゆめコレクション×未来へつなぐ架け橋プロジェクト」などのイベントを行う中で、より良いものにしていくためには運営体制を強化する必要があると感じました。しかし、新たな担い手の確保は簡単ではなく、今後も地域と連携しながら体制を整えていく必要があります。また、「だいがゆめもり秋祭り」では、地域の子ども食堂「みらい食堂」とのつながりが深まり、食育をテーマにした活動にも関わるようになりました。この経験を通して、同じ目的を持つ団体との連携の大切さや、地域を変えていくためには個人ではなく多くの人が関わるということが重要であることを学びました。

取り組みを継続し、地域に根付いた文化へ

今後も継続的な取り組みとして、私たちのチームが醍醐いきいき市民活動センターでの活動を続け、地域に根付いた文化として発展させていくことが重要だと考えています。プロジェクト全体を通じて、年間で500人以上の子どもたちと交流する機会がありました。イベントでは、子どもたちから「明日もあるの?」「次はいつ?」といった声が寄せられ、保護者からは「子どもたちが地域のイベントを楽しんでいるのが分かり、地域のつながりの大切さを実感した」との意見をいただきました。今後も地域の方々と協力しながら、継続可能な活動を模索し、地域の子どもたちが安心して過ごせる場を提供し続けたいと考えています。



子どもでにぎわうイベント